剥離を多用して、スクレイパーを多く有する石器群を作り上げた時期である。また破損した石器をピエスエスキーユや石錐に転用するなど石材の徹底した使用が行われる。系譜は不明だが最上川水系では縦長剥片生産技術を有し縦長剥片を生産する集落が成立し、その一環として太平洋側にその製品が供給された。

６．大梁川遺跡を指標とする石器群の分布圏について

大梁川遺跡の中期後葉の石器群は以下の特徴を有する。このような特徴を有する中期後葉の石器群を大梁川遺跡を指標とする石器群と仮称する。

⑴ 定形的剥片石器・スクレイパーが多く、不定形石器は前時期に比較して少ない。

⑵ 石鏃の組成は凹基･平基が主体で凸基は少ない。凸基の一種の石鏃Ⅲ類（全体形が菱形を呈する）が客体的に存在する。尖頭器は小形である。

⑶ 石匙は縦長の形態・横長の形態共に縦長剥片が使用され、横長の形態の石匙はつまみ部が側辺部に作出される例が多い。身部はスクレイパー状の刃部を持つ。

⑷ 箆状石器は少ない。両極剥離痕のある石器はきわめて多い。

⑸ スクレイパーは極めて多いが、中でも縦長剥片を素材とした特定器種として、両側辺加工のスクレイパー・エンドスクレイパーなど定形的なスクレイパーがかなりある。

⑹ 前述したように、縦長剥片が特定器種の素材として固定的に使用される。

⑺ 石皿には無脚で大形の種類と小形で有脚の種類とがある。

石器群の比較には石器組成が重要であるが、信頼できる組成比が提示されている報告書は少ない。したがって大梁川遺跡の石器群の特徴的な器種・型式を指標とし、その分布範囲から大梁川遺跡を指標とする石器群の分布圏を決定する。定形的で比較的数が多く把握しやすい石鏃の型式および組成と、縦長剥片を素材とする特定器種（石匙・両側辺加工のスクレイパー・エンドスクレイパー）とを指標器種・型式とする。

１．大梁川遺跡を指標とする石鏃組成の分布圏

大梁川遺跡の石鏃の組成は以下の特徴を示す。

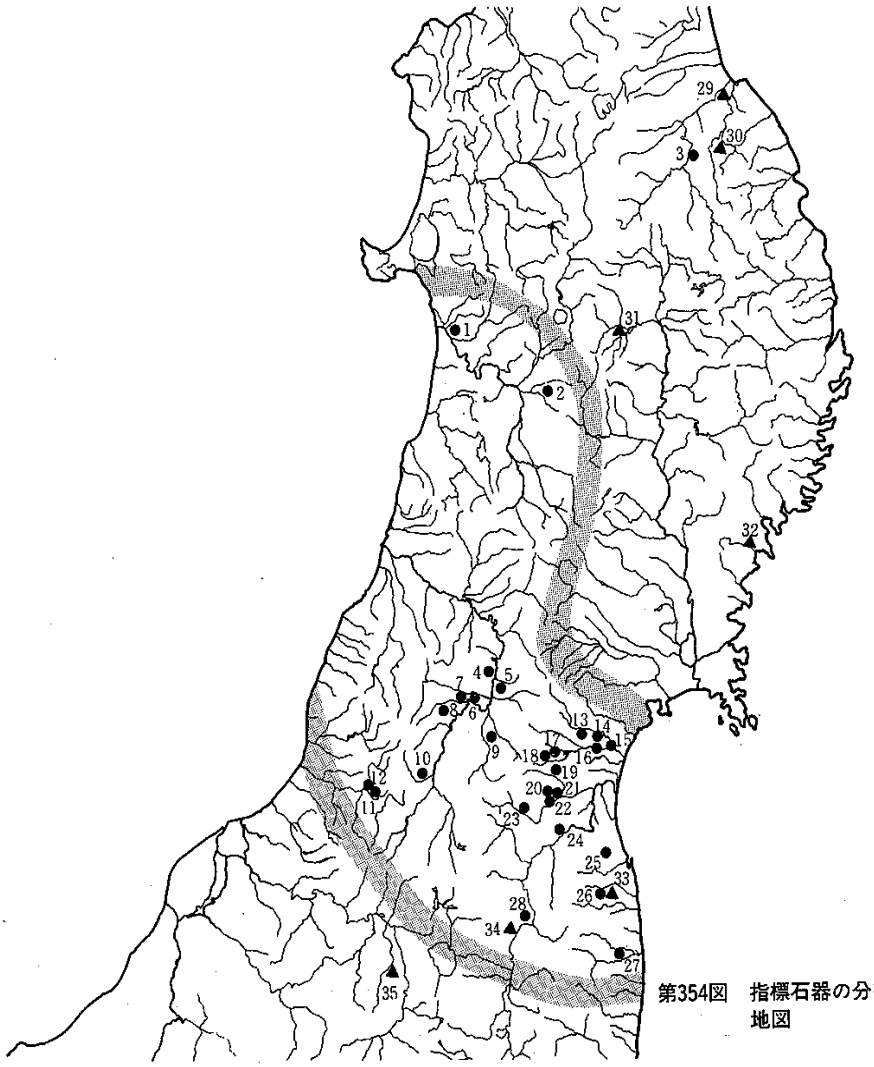
⑴ 石鏃の組成は基部形態が凹基・平基の種類が主体であり、凸基の種類は少ない。

⑵ 凸基の石鏃のなかで、全体形が菱形を呈する石鏃Ⅲ類が特徴的な型式として存在する。

石鏃Ⅲ類は全体形が菱形を呈する種類で、定形性（菱形という形）により分布範囲がとらえやすい。まず石鏃Ⅲ類を指標として分布範囲を押え､大梁川遺跡を指標とする石鏃組成の分布圏を明確にしたい。石鏃Ⅲ類は第354図に示すような分布で17遺跡に見られた。

［馬淵川水系］ 二戸市荒谷Ａ遺跡（鈴木優子他；1983）

［雄物川水系］ 秋田市坂ノ上遺跡（菅原俊行他；1976）、千畑町内村遺跡（畠山憲司；1981）



第354図　指標石器の分布地図

第13表　第354図付遺跡一覧表

No	遺跡名	石鏃Ⅲ類	縦長剥片	石核	石匙
1	秋田県秋田市坂ノ上遺跡	○			
2	秋田県千畑町内村遺跡	○	○		○
3	岩手県二戸市荒谷A遺跡	○			
4	山形県村山市中村A遺跡		○		
5	山形県東根市小林遺跡		○		
6	山形県寒河江市うぐいす沢遺跡	○	○		○
7	山形県寒河江市向原遺跡		○	○	
8	山形県大江町橋上遺跡		○	○	
9	山形県山形市熊ノ前遺跡	○	○		○
10	山形県長井市長者屋敷遺跡		○		○
11	山形県小国町高窪遺跡	○			
12	山形県小国町下野遺跡	○			
13	宮城県旧宮城町観音堂遺跡		○		
14	宮城県仙台市山田上ノ台遺跡		○		
15	宮城県仙台市下ノ内遺跡		○		
16	宮城県仙台市六反田遺跡		○		○
17	宮城県川崎町中沢遺跡	○	○		
18	宮城県川崎町湯坪遺跡		○		
19	宮城県蔵王町湯坂山B遺跡	○	○		
20	宮城県白石市五輪坂遺跡	○			
21	宮城県蔵王町二屋敷遺跡	○	○		○
22	宮城県白石市菅生田遺跡	○	○		○
23	宮城県七ヶ宿町大梁川遺跡	○	○		○
24	福島県梁川町夏篭遺跡	○			
25	福島県相馬市馬見塚遺跡	○			
26	福島県飯舘村上ノ台A遺跡	○			
27	福島県浪江町釈迦堂遺跡	○			
28	福島県二本松市塩沢上原A遺跡	○			
	参考遺跡				
29	青森県八戸市丹後谷地遺跡				
30	岩手県軽米町君成田Ⅳ遺跡				
31	岩手県盛岡市磐遺跡群				
32	宮城県気仙沼市田柄貝塚				
33	福島県飯舘村日向南遺跡				
34	福島県二本松市田地ヶ岡遺跡				
35	福島県会津高田町十五堰遺跡				

［最上川水系］ 寒河江市うぐいす沢遺跡（佐藤･渋谷；1981）、山形市熊ノ前遺跡（佐々木洋治他；1979）

［荒川水系］ 小国町墓窪遺跡（佐藤・名和；1982）、小国町下野遺跡（阿部・名和；1981）

［名取川水系］ 川崎町中沢遺跡（後藤勝彦他；1972）

［白石川水系］ 蔵王町湯坂山Ｂ遺跡（中橋彰吾；1987）、白石市五輪坂遺跡（片倉･中橋･後藤；1976）、蔵王町二屋敷遺跡（加藤・阿部・小徳；1984）、白石市菅生田遺跡（片倉･中橋･後藤；1976）

［阿武隈川水系中流域］ 梁川町夏窪遺跡（日下部善己他；1978）、二本松市塩沢上原Ａ遺跡（目黒吉明他；1975）

［福島県沿岸部］ 相馬市馬見塚遺跡（鈴鹿良一他；1982）、飯館村上ノ台Ａ遺跡（鈴鹿良一他；1984）、浪江町順礼堂遺跡（木本元治；1977）

このなかで荒谷Ａ遺跡は他の遺跡と石鏃の組成が異なり、基部形態は凸基が多い。これは馬淵川水系の伝統的特徴で中期後葉から後期後葉の時期の八戸市丹後谷地遺跡（八戸市教育委員会；1986）でも同様であり、馬淵川水系は大梁川遺跡を指標とする石鏃組成の分布圏からは除外する。馬淵川水系の荒谷Ａ遺跡を除いたこれらの遺跡の石鏃の組成は凹基・平基の石鏃が主体で菱形の石鏃が客体的に少数存在することで共通する。したがって山形県・宮城県（北部を除く）･福島県北部・秋田県南部を大梁川遺跡を指標とする石鏃組成の分布圏と考える。

２．縦長剥片を素材とした特定器種

縦長剥片を素材とした石匙･両側辺加工のスクレイパー･エンドスクレイパーの分布は第 354 図に示す。なお第354 図の「石核」は縦長剥片を剥離した石核で、「石匙」は縦長剥片の側辺などにつまみ部を作出し、横長の形態にした石匙の分布である。以下の17 遺跡があり、これらは山形県・宮城県を中心に秋田県南部にも分布する。

［雄物川水系］ 千畑町内村遺跡

［最上川水系］ 村山市中村Ａ遺跡（渋谷･名和；1983）、東根市小林遺跡（佐藤鎮夫他；1976ａ）、寒河江市うぐいす沢遺跡、寒河江市向原遺跡[註1]（佐藤･渋谷；1981）、大江町橋上遺跡（犬飼・高橋他；1984）、山形市熊の前遺跡、長井市長者屋敷遺跡（佐藤正四郎；1984）

［名取川水系］ 旧宮城町観音堂遺跡（今野隆他；1986）、仙台市山田上ノ台遺跡（渡部･主浜他；1981）、仙台市下ノ内遺跡（篠原信彦；1982）、仙台市六反田遺跡（佐藤洋他；1987）、川崎町中沢遺跡、川崎町湯坪遺跡（一条孝夫；1978）

［白石川水系］ 蔵王町湯坂山Ｂ遺跡、蔵王町二屋敷遺跡、白石市菅生田遺跡（丹羽・阿部・小野寺；1982）

前述したように、これらの遺跡で縦長剥片を剥離した石核が出土している遺跡は最上川水系

中流域の橋上遺跡、向原遺跡のみであり、縦長剥片生産技術を有したこれらの地域の生産遺跡から供給されたと考える。したがって縦長剥片の生産は一元的であった可能性が高いが、それらが素材となる器種がこれらの地域でほぼ共通することは、このような縦長のスクレイパーを必要とした生業形態の共通性を示唆すると考えられる（阿部朝衛；1986）。

３．大梁川遺跡を指標とする石器群の分布圏

大梁川遺跡を指標とする石鏃組成の分布圏と縦長剥片を素材とした特定器種の分布範囲とはほぼ一致する。したがって山形県・宮城県（北部を除く）を中心とし、不明瞭だが福島県北部・秋田県南部に及ぶ範囲を大梁川遺跡を指標とする石器群の分布とする。これらの地域の生業形態の類似性を示すものと考えられる。特に両側辺加工のスクレイパー・エンドスクレイパーが松島湾沿岸部・三陸沿岸部の貝塚地帯に顕著ではなく、これらの器種をもつ大梁川遺跡を指標とする石器群は内陸に適応した生業形態をもつ集団による石器群であると考えられる。縦長剥片の供給から見るかぎり、これらの地域は最上川水系の珪質頁岩の石材供給圏であり、生業形態が類似する地域間で石材の流通関係が成立している点は注目される。

註　　記

註１：寒河江市向原遺跡（寒河江高校社会部；1969）から大木10式土器とともに出土した縦長剥片とその石核は、寒河江考古第３号（安彦・東海林；1972）では旧石器時代の遺物としている。しかし、東北大学考古学研究室助手会田容弘氏から、現在では大木10型式期の遺物として認識されているとの御教示を賜った。

７．中期後葉から後期前葉の剥片石器素材の供給関係

剥片石器の主な素材である珪質頁岩、珪化凝灰岩はグリーンタフ地域の各所に見られ、産地を特定することは困難であり、それらに近接する地域では小規模な石材供給関係が複数成立していたと考えられる。グリーンタフが広範囲に渡って分布しない地域としては馬淵川水系、三陸沿岸部－北上川水系、白石川－名取川水系、福島県沿岸部－阿武隈川水系－阿賀野川水系があり、これらの地域では石器素材の供給を他領域に依存しなければならなかったと考えられる。また、これらの地域と良質な石材が産出する地帯との間に比較的大規模な石材供給関係が成立した可能性がある。特徴的な縦長剥片の分布圏から最上川中流域を生産地とする山形県、秋田県南部、宮城県、福島県北部を中心とする珪質頁岩の石材（剥片）流通圏が不明瞭ながら判明してきた。その他の地域の様相は限られた資料から推測するしかないが、剥片剥離の特徴や石核が極めて多い遺跡などから生産・消費の関係を類推し、各水系ごとにまとめる。

(1) 馬淵川水系

九戸郡軽米町君成田Ⅳ遺跡Ｆ49住居跡（後期前葉）（遠藤勝博他；1983）・丹後谷地遺跡第56号住居跡（後期前葉以前）（八戸市教育委員会；1986）の住居跡床面の剥片貯蔵ピットから両極